

【第7回アフリカ開発会議サイドイベント】

アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）フェーズ2ローンチング -サブサハラアフリカのコメ生産の更なる倍増（5600万トン）を目指して-

国際協力機構（JICA）は、8月30日、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにて、2030年までのサブサハラアフリカのコメ生産の更なる倍増を目標とするCARDフェーズ2のローンチングイベントをAGRA^{*1}との共催により開催し、160名を超える参加がありました。

CARDは2008年、TICAD IVにて開始されたJICAが主導する国際イニシアチブであり、その際に表明された「10年間でコメ生産倍増」という目標は2018年に達成されました。引き続き、アフリカで高まるコメ需要増に対応するため、2019年よりCARDフェーズ2を開始し、更なる生産倍増に向け「RICEアプローチ」（Resilience, Industrialization, Competitiveness, Empowerment）を推進していきます。

イベントでは、加藤 JICA 理事の挨拶、伊藤忠彦衆議院議員による祝辞、NEPAD^{*2} 長官、FAO^{*3} 事務局長、マダガスカル・セネガル両農業大臣からの基調講演が行われ、食料安全保障・経済発展における稲作セクターの重要性が強調されました。引き続き、CARDフェーズ2のコンセプトが動画で紹介され、さらなる人材育成の必要性が指摘されました。

また、RICEアプローチの具体的な方策として、AfricaRiceよりイノベーティブな稲作研究の取り組み、AUより持続可能な農業機械化について発表がありました。また、日本企業からは、株式会社クボタより現場事例に基づく稲作機械化の有効性、および豊田通商株式会社より稲作バリューチェーンと農家の経済メリットについての報告があり、多くの示唆が得られました。また、TICAD 官民ビジネス対話で発表された「日本・アフリカ農業イノベーションセンター」の構想も紹介されました。

最後にAGRAの閉会挨拶があり、各機関のパートナーシップによって目標を達成していく必要性が強調されました。JICAも引き続きCARDの運営をリードしていくとともに、アフリカの食料安全保障、農家の生計・生活向上に向け、貢献していきます。

■本イベントの主な登壇者

【開会挨拶】

- ・加藤宏 JICA 理事

【祝辞】

- ・伊藤忠彦 衆議院議員（日本・アフリカ連合（AU）友好議員連盟）

【基調講演】

- ・イブラヒム・マヤキ NEPAD 長官
- ・屈冬玉（ク・ドンギユ） FAO 事務局長
- ・ラナリヴェル・ルシアン マダガスカル農業・畜産・水産大臣
- ・ムサ・バルデ セネガル農業・農村施設大臣

【トピック発表者】

- ・羽石祐介 CARD 事務局ジェネラルコーディネーター
- ・ハロルド・ロイマコーリィ AfricaRice 所長
- ・アフェイヘナ・ジェローム アフリカ連合委員会アドバイザー
- ・北尾裕一 (株)クボタ 代表取締役副社長執行役員
- ・和田明 豊田通商(株) アフリカ本部アフリカ企画部部長

【閉会挨拶】

- ・ジョージ・ビギルワ AGRA 副総裁

■脚注

1. AGRA^{*1} : Alliance for a Green Revolution in Africa（アフリカ緑の革命のための同盟）
2. NEPAD^{*2} : New Partnership for Africa's Development（アフリカ開発のための新パートナーシップ）
3. FAO^{*3} : The Food and Agriculture Organization（国連食糧農業機関）

■写真



サイドイベントでの基調講演の様子



国産米の市場調査の様子（マダガスカル）

■関連する SDGs ゴール：



●関連リンク

- ・ CARD について（JICA ウェブサイト）
<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/materials.html>
- ・ アフリカのコメ生産、10年で倍増達成へーアフリカ稲作振興のための共同体（CARD）関連会合の開催ー（2018年10月5日）
https://www.jica.go.jp/information/seminar/2018/20181005_01.html
- ・ CARD について（外部サイト：英語）
<https://www.riceforafrica.net/>